更ニ上申ス[illegible]通達[illegible]

明治十九年五月廿四日

右総代

有山忠房

大阪府知事建野郷三殿

上申書

大和国添下郡高山村

茶筅職 仲間

一明治十八年御府甲第四十六號御達ニ因リ同業者組合ヲ設ケ同年九月十三日附ヲ以出願仕候処同十一月七日附ヲ以願意御認可相成ミ后実施ニ着手仕候処其当初ニ有ッテハ尤是不服者ノ在ルアリ加之亦同盟者ニシテ規約ニ聊カ抵觸セシ者モ有之旁々以テ一時ハ團結ニ苦慮セシ

場合モ有之レカトモ其違約ニ在ツテハ規約創業
之當時其條件之未熟ナルヨリ不計事之茲ニ
出ルモノニテ別段之レカ違約者ニ問フ程ノ事ニモ至ラス
将又茶販者ニ於テモ日ヲ追テ漸次加盟仕来
別ニ異状無之當業者ニ於テハ製造品之改良
販路之廣張ニ各々心ヲ盡シ漸次販路押
弘メ昨十九年中之賣捌高ハ壹萬八千八百
四拾本此價額平均壹本ニ付凡ソ金五銭ノ
見込ニ之レアリ

一 仲間經費之取扱方ハ其初メ聊カ宛徴収スルモ
后ハ規約第二十八條ニ因リ仲間集議之評決ヲ
經テ規約第八條ニ定メタル印章ノ代價ヲ壹葉
金壹厘ト相定メ之レガ印章ノ使用高ニ積算
シ各自ヨリ徴収スル迠ノ金員ヲ以仲間ノ費途ニ
相用ヒ候迠別紙之通リニ御座候間收支決
算書相添此段併セテ上伸仕候也

右

明治廿年二月十三日

取締 有山忠房

明治三十年一月十七日 右仲間創立總代

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

茶筌職仲間契約

第壹章 總則

第壹條 當仲間ハ從來添下郡北倭村大字高山ニ營業ヲナス茶筌職工人ノ一致團結シタルモノニシテ之レヲ茶筌職營業仲間ト稱ス

第二條 當仲間ノ團結ハ添下郡北倭村大字高山ノ地域トス

第二章 營業ニ關スル規定

第三條 當仲間ハ各自業務ニ勉勵シ一層製品ノ精良ニシテ他産出品ニ劣ザル様世人ノ信用ヲ得テ其販路ノ擴張シ利益ヲ遠大ニ期シ以テ其産出ノ益旺盛ナランヿヲ目的トスベシ

右仲間ハ専ラ信義ヲ主トシ相互ニ職工人ノ…

ヲ交換スヘシ

第五條 各自従来取引ノ得意先キハ濫リニ侵スヘカラス切
論談外ノ安價ニテ販賣シ又ハ競賣スルヿヲ得ス

第六條 仲間中注文非常ニ輻湊シ自家ニテ調達能ハサル場合ニ於テ之カ製造ノ助手ヲ他ニ求メタル時ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルヿヲ得ス

第七條 仲間内ノ者ニシテ仲間外ノ者ニ茶釜ヲ傳授セントスル時ハ仲間集會ノ上一統ノ承諾ヲ得ヘシ

第八條 世人ノ信用ヲ得ル爲メ御褒状ヲ写シタル印章ヲ各自製出ノ茶釜ニハ必ス貼付シテ販賣スルモノトス

第三章 役員撰擧及職務權限

第九條 仲間中ノ事件取締ノ爲メ左ノ役員ヲ置クヘシ

但取締ハ仲間内ニ於テ相當ノ名望アル者ヲ撰擧スヘシ
副取締ハ其會員中ヨリ公撰ス

取締 壹名 副取締 壹名

第十條 正副取締ノ任期ハ満三ヶ年トス尤モ役員ハ任期中ト雖モ其職ニ堪ヘカタキ事情アル時ハ速ニ改撰スルヿアルヘシ

但満期ニ至リ前任者ヲ重任スルヲ得

第十一條 取締ハ此契約ニ掲クル條項ヲ統理シ副取締ハ正員ノ理事ヲ助ケ又ハ之カ代理スルモノトス

第十二條 役員ハ品行方正ニシテ専ラ製品ノ改良ニ販路ノ擴張ニ注意スルモノトス

第十三條 正副取締ハ營業上ニ付仲間員ヲ召喚スルノ權アルモノトス

第四章 集會ニ關スル規定

第十四條 当仲間ハ年ニ二度ノ集會ヲ開キ営業上ノ利害得失及前期決算報告後期豫算等ヲ評決スルモノトス

但事急施ヲ要スル時ハ臨時集會ヲ開クアルヘシ

第十五條 集會ニ於テ評決セシ件ハ欠席者ニ於テ后日異議ヲ唱フルヲ得ス

第五章 費用ノ方法

第十六條 仲間ニ係ル諸雜費ノ賦課方ハ左ノ等級ニ應シ徴收スルモノトス

一等五拾銭 二等三拾銭 三等貳拾銭 四等拾銭

但右徴收金ヲ以テ不足スル時ハ仲間協議ニ依ルヘシ

第十七條 仲間ノ者ニシテ違約ニ係ル徴收金ハ共有物トシ仲間總体ノ費用ニ充ツヘシ

第十八條 正副取締ハ別ニ支給セス然レトモ仲間用ノ爲メ費シタル日ハ相應ノ日當ヲ給ス其給額ハ集會上決定スヘシ

第六章 違約者処分方法

第十九條 此契約ニ背キタル者ハ其輕重ニ依リ処分方ノ項目左ノ如シ

第一項 取締ノ召喚ニ應セサルカ又ハ無届ニテ集會ニ不參セル者ハ金拾五銭以上五拾銭以下ノ違約金ヲ取立ツルモノトス

第二項 第十七條ニ背キタル者ハ金壹円以上拾円以下ノ違約金ヲ徴收スルモノトス

第三項 第八條ニ背キタル者ハ金五拾銭以上五円以下ノ違約金ヲ徴收ス

別紙[illegible]

右伺之[illegible]候也

明治十六年一月六日

製

茶筌直止ケ付仲間定約證

一 商業者共同ノ福利ヲ増進セシメ益々業務ノ擴張盛大ヲ企圖スル爲メ今般仲間熟議ノ上直止ケノ事ヲ決定シ茲ニ之レヲ定約スル左ノ如シ

一 我産業茶筌タルヤ古来美術ヲ以テ其名ヲ世上ニ知ラル殊ニ上流社會ノ需用品ニ係リ優美ナル職業地位ニ居レリ故ニ妄リニ安價ヲ以テ販賣スルガ如キハ本業ノ本旨ニ非ザル所ナリ然ルニ近年販路大ニ擴張シ盛況ナルニ反シ價格ハ低廉ニシテ騰貴セシムル能ハザル所以ハ他ナラズ當業者ノ團結力ニ乏シク各自心意一致堅定セザルニ原因スルナリ今回此弊ヲ矯メ尚一層正良品ヲ製造シ競賣ヲ防ギ一致結合當業者ノ幸福

得ル目的トシ左ニ定ムル直段ヲ以テ仲間ノ元價トス
此元價ニテ仲間中ニ於テ現金ヲ以テ賣買取引スルモノトス
八拾本立壱本ニ付三貳壱重　数穂ハ貳貳六重
常穂ハ　貳貳参重　並穂ハ　貳　弐
茶柏貳本ハ参貳六重
但煤竹ハ一本ニ付壱貳参重ヅヽ
諸流儀品ハ仲間評議ノ上相当ノ元價ヲ定ム

一　仲間ノ内外ヲ問ハズ右定メタル元價ヨリ毫モ安價ニテ販賣スルヲ許サズ

一　直上ゲニ付毎月十五日仲間例月會ヲ開キ各地ノ商况ヲ談シ直上ゲニ関スル協議ヲナスモノトス

一　此直上ゲノ定約ハ取結ビシ日ヨリ之レヲ実行ス

一　本定約ハ例月會ノ協議ニ依リ變更スルコトアルベシ

一　右元價ヨリ安價ニテ販賣シ直上ゲノ妨害ヲナシ商機ヲ紊シ信義道徳ヲ尽サヾル者ハ違約者トシテ金拾円以上五拾円以下ノ違約金ヲ取立ツルモノトス

一　此定約ニ背キタル者アルヲ認ムル時ハ速ニ仲間例月會ニ申告スルモノトス
但違約者ヨリ取立テタル違約金ノ半額ハ申告者ニ付與ス

右ノ定約堅ク相守リ決シテ違背スベカラザルヨリ玆ニ仲間一統署名捺印スルモノナリ

明治廿六年二月十五日

第四項　私利ニ走リ仲間一般ノ妨害ヲ與フルカ又ハ
仲間ノ名義ヲ失フ所為アル者ハ罰金五拾
銭以上弐円以下ノ違約金ヲ徴収ス

第二十條　各項ノ違命ヲナス時ハ取締ニ於テ先ツ軽重ヲ別チ
其金額ヲ定置臨時集会（開キ仲間評決ノ）ヲ経テ後之ヲ徴収スルモノトス

第二十一條　第十九條各項ニ掲クル違約金徴収ニ應セサル時ハ
官ニヨリ公裁ヲ仰クアルヘシ

右二十一條ノ契約仲間協議ノ上決定シタレハ
確ク相守リ決シテ違背スヘカラサルニヨリ各姓
名ヲ記シ實印ヲ押捺シ取締手元ヘ預置
セシムルモノナリ

茶業職仲間員
久保喜太郎
久保篤蔵
久保友吉
久保太三郎
久保駒吉
谷村兵松

大和國添下郡富高村

某業職仲間

當組合員タルモノハ新舊何人ヲ問ハス
別紙規約ノ要項堅ク相守ベク
候事

但規約創設以後ノ加盟者
ハ當組合創業費ヲ
負擔スベシ

明治十五年

右

明治十九年

組合仲間

事務所

創業者

組合人名

久保喜太郎

久保為蔵

久保友吉

久保太三郎

池田亀吉

久保栄吉

谷村兵松

谷村常吉郎

明治十九年八月十日加盟　久保助吉

明治十九年八月十日加盟　池田平治郎

明治十九年十一月五日加盟　田中重太郎